

小学5年 算数科

「速さの表し方を考えよう」 (啓林館 5年)

学校教育目標

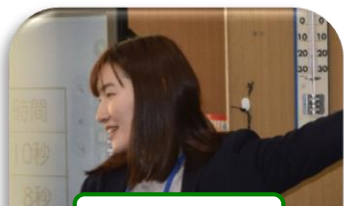
「人、夢、ふるさと」
つながる力の育成

単元の流れ

単元のポイント

乗り物や動物が動いている様子を速さとして数値化したり、数直線図を用いて視覚化したりする中で、児童に速さの意味やイメージをつかませる。また、実際の持久走でのタイム等、身の回りの実測値を用いることで速さを体感し、「主体的な学び」を実現する。

大津南小では、学校教育目標の実現に必要な資質・能力を、「学び合う力」「自分で考え取り組む力」「人や地域に共感する力」と設定している。また、校内研究で位置付けられた問題解決的な展開の授業『みなみ学習』では、根拠や理由を明確にして表現し合う活動を行っている。本単元では、全体やグループでの話し合いを学習の中心にする中で、それぞれの困っていることを丁寧に解決していき、学び合う力を高めていく。



第1時

「単位量あたり」の学習を想起し、速さの場合でも、一方の量を揃えともう一方の量で比べられることを理解する。



第2～7時

- ① 「速さ」「時間」「距離」の関係が分かるように数直線図を用いて視覚化する。
 - ② 数直線図をもとにして、実際の持久走のタイムから速さを導き出し、様々な単位に置き換えながら、他の速さと比較する。
- 単元を通して、それぞれの困っていることの解決に向けた、数学的な表現を用いた学び合いを行う。



第8時・ 他教科等

- 身の回りにある速さを探し、速さ比べを行う。
- 持久走でのペースランニングや目標設定等、体育の学習と関連させる。

指導項目

C 変化と関係 (2) 異種の二つの量の割合
イ 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かすこと。

評価について

毎時間の学びを記録したノートやワークシート、他教科での活用の様子等を基に、速さの意味について理解しているか、学びをどのように生かしていこうとしているかについて評価する。

目指す児童の姿

- 友達の見解や困っていることに、しっかりと寄り添い耳を傾ける。
- 自分の考えを整理し、それを表現する。